



甦るか？WTO

トランプ政権は貿易赤字の解消のため、三月下旬、六千億ドルもの中国製品への高関税とともに、鉄鋼・アルミニウムの輸入制限の発動を発表した。早速に中国も最大二五%の追加関税を課す一二八品目を公表し、対抗措置を打ち出した。四月に入って中国は摩擦回避を狙って天然ガスや半導体・自動車等の輸入拡大の考えを示したものの、二日には報復関税の発動に踏み切ったことから、今度はアメリカが一千億ドルの追加制裁を科す方針を表明するなど、さながら米中貿易戦争の様相を呈し始めた▼こうした米中の激しいやりとりの中で注目したいのが、中国が対抗策を講じる盾としてWTO遵守を持ち出してきたことである。流れはWTOから、二国間、もしくはブロック化の方向に大きくシフトしてきた。それがほとんど死に体だと思われていたWTOが突然に生き返ったような感があり、正直、大いに驚かされた。これはアメリカ、EU、日本を分断するための作戦だとの解説もあるが、大国が力づくで貿易ルールを主導していくよりは、よっぽどましかもしれない▼それにしても一七日からの日米首脳会談は要注意だ。米韓FTAは、在韓米軍の撤収をちらつかせての、わずか三か月の交渉で押し切っている。またトランプは「長い間アメリカをだまし続けてきた」日本に向けて、「そんな日々はもう終わりだ」とのメッセージを発している。仲良し外交で、森友からの失地回復を図ろうなどとの幻想は甘すぎる。牙をむき始めたトランプを侮ってはならない。

(土着菌)